

やまとの名品

天理図書館



ドネウス そうもくし 草木誌

ライデン 1618年刊（蘭訳第二版）

縦 40 cm 横 26 cm

江戸時代には、オランダから長崎の出島を通してさまざまな文物が日本にもたらされた。西洋の書籍も医学書、天文・地理書、化学書、兵学書など多岐にわたって渡来した。

これらは、オランダ東インド会社から幕府への献上本として、大名、和蘭通詞（通訳）、蘭学者などの注文品として、あるいは、オランダ人の私物を譲ってもらうなどして日本人の手に渡っていった。

掲出書もそうした書籍の一つ。幕府に献上された最も早い例は、万治二（一六五九）年にオランダ商館長ワーヘナールから献上された一六一八

年刊蘭訳第二版である。

著者のドドネウスは、一五一七年にフランダース（現在のベルギー）の裕福な家庭に生まれた。

十八歳のときにルーヴァン大学で医師の資格を得た。天文・地理や博物学にも造詣が深く、一五八三年にライデン大学の植物学教授に任命されている。

本書は、日本では、とくに薬としての製法、効能の解説が熱心に読み継がれ、長期にわたり蘭学者、本草学者、薬物学者などに利用された。徳川八代將軍吉宗にオランダ語の学習を命じられた野呂元丈



は、寛保元（一七四一）年から十年間、江戸参府のオランダ商館長一行を訪ねて本書の内容を質問し、『阿蘭陀本草和解』にまとめて將軍へ献上している。松平定信は、もと和蘭通詞の石井恒右衛門に同書第三版の翻訳を命じ出版を試みたが、文政十二（一八二九）年の江戸大火で原稿類・版木の大半を失い、それはな

らなかつた。
（天理図書館 神崎順一）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
ただし4月18日、29日、30日は休み
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）